

1

(1)(i)

$$\begin{aligned}\lim_{x \rightarrow \infty} \frac{3^{x-1} + 4^{x+1}}{2^{x+1} - 4^{x-1}} &= \lim_{x \rightarrow \infty} \frac{\frac{3^{x-1}}{4^{x-1}} + \frac{4^{x+1}}{4^{x-1}}}{\frac{2^{x+1}}{4^{x-1}} - \frac{4^{x-1}}{4^{x-1}}} \\ &= \lim_{x \rightarrow \infty} \frac{\left(\frac{3}{4}\right)^{x-1} + 16}{4 \cdot \left(\frac{1}{2}\right)^{x-1} - 1} \\ &= -16\end{aligned}$$

である。

(答) -16

(ii)

$\lim_{x \rightarrow \infty} \left(1 + \frac{1}{x-1}\right)^{3x}$ において $y = x-1$ と置換することにより,

$$\begin{aligned}\lim_{x \rightarrow \infty} \left(1 + \frac{1}{x-1}\right)^{3x} &= \lim_{y \rightarrow \infty} \left(1 + \frac{1}{y}\right)^{3(y+1)} \\ &= \lim_{y \rightarrow \infty} \left\{ \left(1 + \frac{1}{y}\right)^{3y} \left(1 + \frac{1}{y}\right)^3 \right\} \\ &= \lim_{y \rightarrow \infty} \left[\left\{ \left(1 + \frac{1}{y}\right)^y \right\}^3 \left(1 + \frac{1}{y}\right)^3 \right] \\ &= e^3\end{aligned}$$

を得る。

(答) e^3

(2)

$$f(x) = \frac{x^2 + 3}{x + 1} \text{ より}$$

$$f'(x) = \frac{2x(x+1) - (x^2 + 3)}{(x+1)^2} = \frac{x^2 + 2x - 3}{(x+1)^2}$$

であるから $f'(2) = \frac{5}{9}$ である。

(答) $f'(2) = \frac{5}{9}$

(3)(i)

$$\begin{aligned}\int_{\log 2}^{\log 8} \sqrt{e^x} dx &= \left[2e^{\frac{x}{2}} \right]_{\log 2}^{\log 8} \\ &= 2 \left(e^{\frac{\log 8}{2}} - e^{\frac{\log 2}{2}} \right) \\ &= 2 \left(e^{\log 2 \sqrt{2}} - e^{\log \sqrt{2}} \right) \\ &= 2 \left(2\sqrt{2} - \sqrt{2} \right) \\ &= 2\sqrt{2}\end{aligned}$$

である。

(答) $2\sqrt{2}$

(ii)

部分積分を実行して,

$$\begin{aligned}\int_0^2 x \sin \pi x dx &= \left[-\frac{1}{\pi} x \cos \pi x \right]_0^2 + \int_0^2 \frac{1}{\pi} \cos \pi x dx \\ &= -\frac{2}{\pi} + \left[\frac{1}{\pi^2} \sin \pi x \right]_0^2 \\ &= -\frac{2}{\pi}\end{aligned}$$

である。

(答) $-\frac{2}{\pi}$

2

(1)

与えられた方程式は

$$z^2=1+\sqrt{3}i=2\left(\cos\frac{\pi}{3}+isin\frac{\pi}{3}\right)$$

と書き換えられる。ここで z を実数 r ($r\geq 0$) と θ ($0\leq \theta<2\pi$) を用いて

$$z=r(\cos\theta+isin\theta)$$

と表すと、ド・モアブルの定理より

$$z^2=r^2(\cos 2\theta+isin 2\theta)$$

である。よって整数 k を用いることにより

$$\begin{cases} r^2=2 \\ 2\theta=\frac{\pi}{3}+2k\pi \end{cases}$$

という関係が得られる。 r と θ の範囲に注意して、

$$\begin{cases} r=\sqrt{2} \\ \theta=\frac{\pi}{6}+k\pi \end{cases}$$

$$\therefore \begin{cases} r=\sqrt{2} \\ \theta=\frac{\pi}{6}, \frac{7}{6}\pi \end{cases}$$

となる。 $\theta=\frac{\pi}{6}$ のとき

$$z=\sqrt{2}\left(\cos\frac{\pi}{6}+isin\frac{\pi}{6}\right)=\frac{\sqrt{6}+\sqrt{2}i}{2}$$

であり、 $\theta=\frac{7}{6}\pi$ のとき

$$z=\sqrt{2}\left(\cos\frac{7}{6}\pi+isin\frac{7}{6}\pi\right)=-\frac{\sqrt{6}+\sqrt{2}i}{2}$$

である。

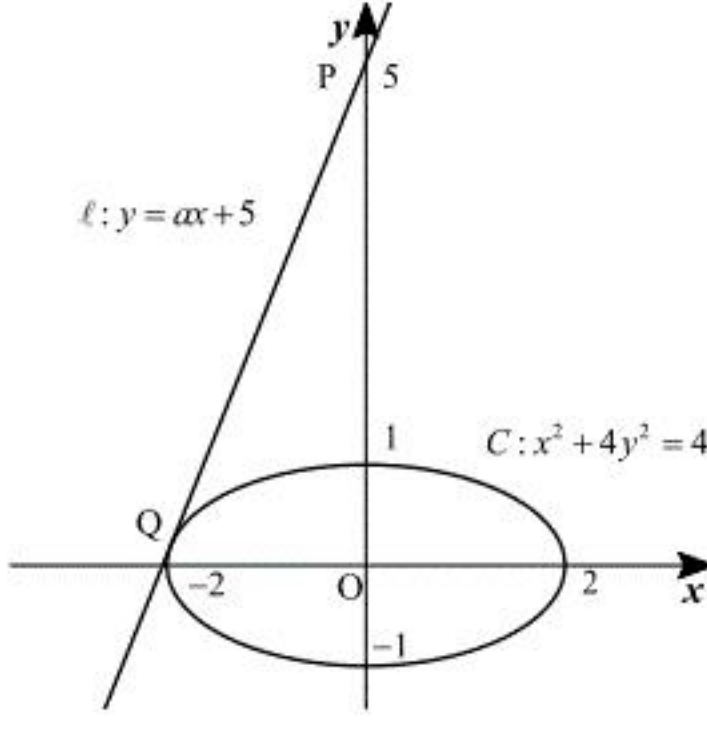
$$(答) z=\pm\frac{\sqrt{6}+\sqrt{2}i}{2}$$

(2)

直線 ℓ は点 $P(0, 5)$ を通る傾きが正の直線であるから、傾きを a ($a>0$) とすると

$$\ell:y=ax+5$$

と表せる。このとき直線 ℓ は下図のように楕円 $C:x^2+4y^2=4$ に接する。



ℓ の式を C の式に代入して y を消去すると、

$$x^2+4(ax+5)^2=4$$

$$\Leftrightarrow (4a^2+1)x^2+40ax+96=0 \quad \cdots \textcircled{1}$$

である。楕円 C に直線 ℓ が接するから①式の判別式 $D/4=0$ より

$$(20a)^2-(4a^2+1)\cdot 96=0$$

$$\Leftrightarrow 16a^2-96=0$$

$$\Leftrightarrow a^2=6$$

となり $a>0$ に注意すると $a=\sqrt{6}$ である。これより $\ell:y=\sqrt{6}x+5$ を得る。また①式に $a=\sqrt{6}$ を

代入すると、接点 Q の x 座標は

$$25x^2+40\sqrt{6}x+96=0$$

$$\Leftrightarrow (5x+4\sqrt{6})^2=0$$

$$\therefore x=-\frac{4\sqrt{6}}{5}$$

であり、これを ℓ の式に代入することで接点 Q の y 座標は

$$y=\sqrt{6}\cdot\left(-\frac{4\sqrt{6}}{5}\right)+5=\frac{1}{5}$$

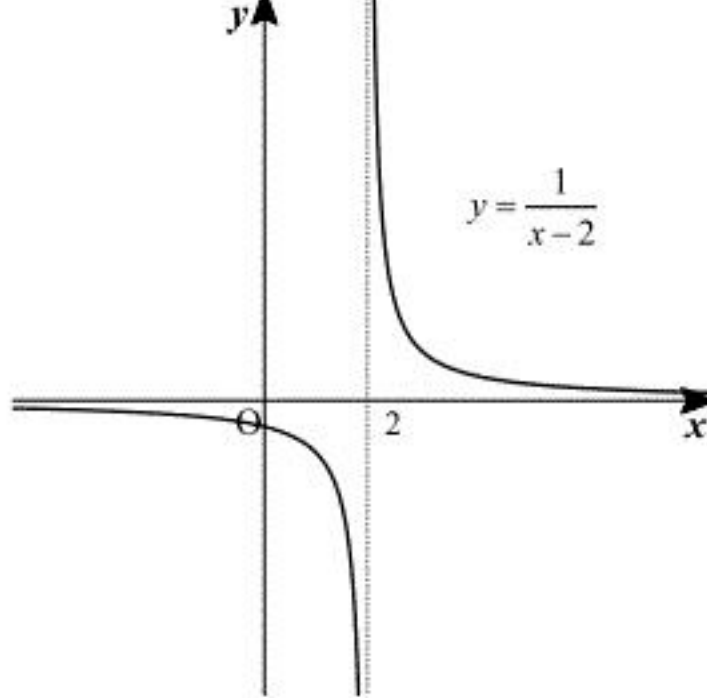
と求まる。

$$(答) \ell:y=\sqrt{6}x+5, Q\left(-\frac{4\sqrt{6}}{5}, \frac{1}{5}\right)$$

(3)(i)

$y=\frac{1}{x-2}$ のグラフは $y=\frac{1}{x}$ のグラフを x 軸方向に2 だけ平行移動させたものであるから以下

の図ようになる。



(答) 上図

(ii)

$y=\frac{1}{x-2}$ と $y=a$ のグラフの交点を考える。

[1] $a>0$ のとき

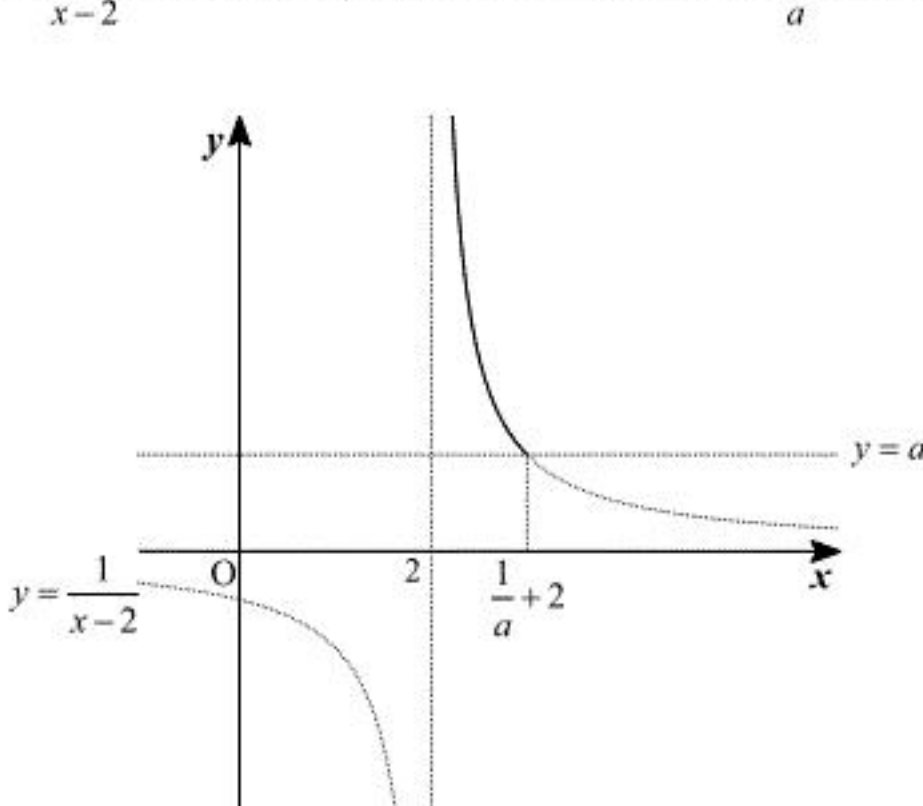
交点の x 座標は、

$$\frac{1}{x-2}=a$$

$$\Leftrightarrow x-2=\frac{1}{a}$$

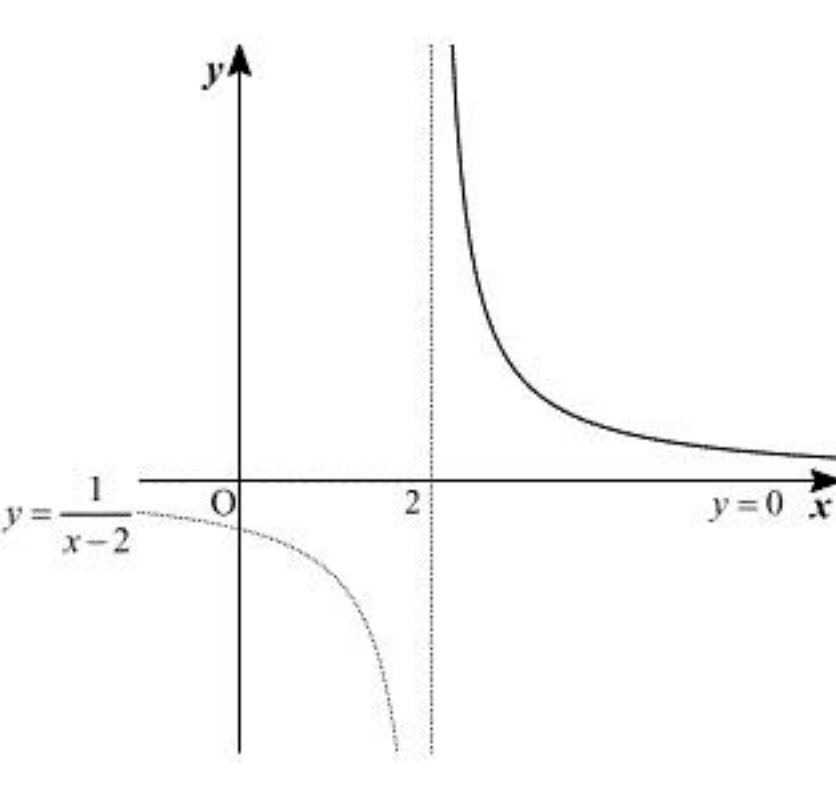
$$\Leftrightarrow x=\frac{1}{a}+2$$

であるので $\frac{1}{x-2}\geq a$ を満たす範囲は以下の図より $2< x\leq \frac{1}{a}+2$ である。



[2] $a=0$ のとき

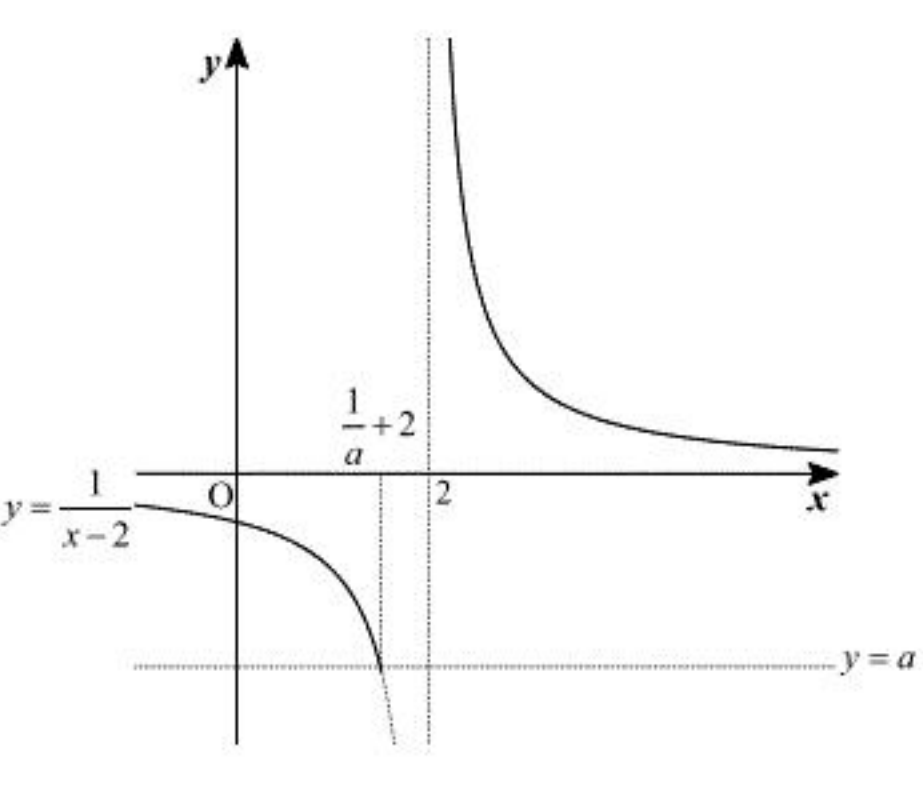
交点は存在せず、 $\frac{1}{x-2}\geq a$ を満たす範囲は以下の図より $x>2$ である。



[3] $a<0$ のとき

交点の x 座標は[1]と同様に $x=\frac{1}{a}+2$ である。 $\frac{1}{x-2}\geq a$ を満たす範囲は以下の図より $x\leq$

$\frac{1}{a}+2$ または $x>2$ である。



以上、[1], [2], [3]より、求める解は

$$\begin{cases} 2< x\leq \frac{1}{a}+2 & (a>0) \\ x>2 & (a=0) \\ x\leq \frac{1}{a}+2 \text{ または } x>2 & (a<0) \end{cases}$$

となる。

$$2< x\leq \frac{1}{a}+2 \quad (a>0)$$

$$(答) \quad x>2 \quad (a=0)$$

$$x\leq \frac{1}{a}+2 \text{ または } x>2 \quad (a<0)$$

(1)

8 個の値の和とその値の平均の 8 倍は一致するから、

$$13+11+9+15+6+9+16+x=11.5\times 8$$
$$\therefore x=13$$

である。このデータを昇順に並べ替えると

$$6, 9, 9, 11, 13, 13, 15, 16$$

となるから中央値は $\frac{11+13}{2}=12$ である。

(答) $x=13$ ，中央値 12

(2)

関数 $f(x)=4x^3-9x^2-12x$ を微分すると、

$$f'(x)=12x^2-18x-12$$
$$=6(2x+1)(x-2)$$

であるので以下の増減表が得られる。

x	...	$-\frac{1}{2}$	...	2	...
$f'(x)$	+	0	-	0	+
$f(x)$	$\nearrow$	極大	$\searrow$	極小	$\nearrow$

これより極大値は

$$f\left(-\frac{1}{2}\right)=4\cdot\left(-\frac{1}{2}\right)^3-9\cdot\left(-\frac{1}{2}\right)^2-12\cdot\left(-\frac{1}{2}\right)=\frac{13}{4}$$

であり、極小値は

$$f(2)=4\cdot 2^3-9\cdot 2^2-12\cdot 2=-28$$

である。

(答) 極大値 $\frac{13}{4}$ ($x=-\frac{1}{2}$ のとき)
極小値 -28 ($x=2$ のとき)

(3)

$\frac{1}{3-\sqrt{2}}$ を有理数であると仮定すると $\frac{1}{3-\sqrt{2}}>0$ より、互いに素な 2 つの正の整数 p, q を用いて

$$\frac{1}{3-\sqrt{2}}=\frac{q}{p}$$

と表せる。これより

$$p=(3-\sqrt{2})q$$
$$\Leftrightarrow -p+3q=\sqrt{2}q$$
$$\Leftrightarrow \sqrt{2}=\frac{-p+3q}{q}$$

が得られるが、 p, q は整数であることから、左辺は無理数、右辺は有理数となり矛盾が生じ

る。よって $\frac{1}{3-\sqrt{2}}$ は無理数である。

(証明終)

(1)

数列 $\{a_n\}$ は初項 8, 公比 r の等比数列であるからその一般項は $a_n = 8 \cdot r^{n-1}$ である。また数列

$\{b_n\}$ は $b_n = \frac{1}{a_n}$ で定められるからその一般項は $b_n = \frac{1}{8} \cdot r^{-n+1}$ である。

$$(\text{答}) \quad a_n = 8 \cdot r^{n-1}, b_n = \frac{1}{8} \cdot r^{-n+1}$$

(2)

(1)より $a_6 = 8 \cdot r^5$ であり, これが $-\frac{9\sqrt{3}}{4}$ と一致するから

$$\begin{aligned} 8 \cdot r^5 &= -\frac{9\sqrt{3}}{4} \\ \Leftrightarrow r^5 + \frac{9\sqrt{3}}{32} &= 0 \\ \Leftrightarrow r^5 + \left(\frac{\sqrt{3}}{2}\right)^5 &= 0 \\ \Leftrightarrow \left(r + \frac{\sqrt{3}}{2}\right) \left(r^4 - \frac{\sqrt{3}}{2}r^3 + \frac{3}{4}r^2 - \frac{3\sqrt{3}}{8}r + \frac{9}{16}\right) &= 0 \end{aligned}$$

となり実数解 $r = -\frac{\sqrt{3}}{2}$ が得られる。また,

$$\begin{aligned} r^4 - \frac{\sqrt{3}}{2}r^3 + \frac{3}{4}r^2 - \frac{3\sqrt{3}}{8}r + \frac{9}{16} &= r^2 \left(r - \frac{\sqrt{3}}{4}\right)^2 + \frac{9}{16}r^2 - \frac{3\sqrt{3}}{8}r + \frac{9}{16} \\ &= r^2 \left(r - \frac{\sqrt{3}}{4}\right)^2 + \frac{9}{16} \left(r - \frac{\sqrt{3}}{3}\right)^2 + \frac{3}{8} \\ &> 0 \end{aligned}$$

となり, 実数解が $r = -\frac{\sqrt{3}}{2}$ のみであることも示された。

$$(\text{答}) \quad r = -\frac{\sqrt{3}}{2}$$

(3)

S_n の定義より $S_3 = 8 + 8r + 8r^2$ であるから

$$\begin{aligned} S_3 &< \frac{13}{2} \\ \Leftrightarrow 8 + 8r + 8r^2 &< \frac{13}{2} \\ \Leftrightarrow 16r^2 + 16r + 3 &< 0 \\ \Leftrightarrow (4r + 3)(4r + 1) &< 0 \end{aligned}$$

である。よって $-\frac{3}{4} < r < -\frac{1}{4}$ である。これは r は -1 でも 0 でもないことを満たす。

$$(\text{答}) \quad -\frac{3}{4} < r < -\frac{1}{4}$$

(4)

数列 $\{a_n\}$, $\{b_n\}$ の一般項と S_n , T_n の定義より,

$$\begin{aligned} \frac{S_4}{T_4} &= \frac{8(1+r+r^2+r^3)}{\frac{1}{8}\left(1+\frac{1}{r}+\frac{1}{r^2}+\frac{1}{r^3}\right)} \\ &= 64 \cdot \frac{r^3(1+r+r^2+r^3)}{r^3+r^2+r+1} \\ &= 64r^3 \end{aligned}$$

である。これが 27 と一致するから

$$\begin{aligned} 64r^3 &= 27 \\ \Leftrightarrow r^3 - \frac{27}{64} &= 0 \\ \Leftrightarrow r^3 - \left(\frac{3}{4}\right)^3 &= 0 \\ \Leftrightarrow \left(r - \frac{3}{4}\right) \left(r^2 + \frac{3}{4}r + \frac{9}{16}\right) &= 0 \\ \Leftrightarrow \left(r - \frac{3}{4}\right) \left\{ \left(r + \frac{3}{8}\right)^2 + \frac{27}{64} \right\} &= 0 \end{aligned}$$

となり, $\left(r + \frac{3}{8}\right)^2 + \frac{27}{64} > 0$ より, 実数解 $r = \frac{3}{4}$ が得られる。

$$(\text{答}) \quad r = \frac{3}{4}$$